整理番号

D－2－4　　360

標 題 名

産業督励委員部設置規程及特例事項

（病害虫防除の指導事項を含む）

著 者 名

発行者名

福井県

発 行 年

明治３７年（1904年）

製作年月

令和３年６月

寄贈図書
農業技術研究所
54. 3. 23

明治三十七年九月

産業督勵委員部設置規程及督勵事項

植物防疫
資料館
図書之印

福井縣内務部第四課

目次

一　知事訓示

一　産業督勵委員部設置規程

一　農事ニ關スル督勵事項及其實施方法

一　商工ニ關スル督勵事項及其實施方法

一　水產ニ關スル督勵事項及其實施方法

一　林業ニ關スル督勵事項及其實施方法

附錄

一　害蟲驅除豫防方法

一　害蟲驅除豫防方法取扱手續

一　害蟲種類及驅除豫防方法

一　害蟲驅除豫防方法施行規則

一　害蟲驅除豫防監督委員設置規程

一　蠶蚓驅除規則

知事訓示

（明治三十七年八月十九日各郡市支部委員長及支部委員副長會同ノ席ニ於テ）

曩ニ時局ニ鑑ミル所アリ特ニ産業ヲ督勵シテ其ノ發達ヲ圖ランカ爲當局ニ對シ數次訓示ヲ爲シタリト雖尚一層之カ監督奬勵ヲ加フルノ緊切ナルヲ認メ本年六月産業督勵委員部設置規程ヲ設定シタリ而シテ今ヤ各部ニ於ケル機關ノ組織亦殆ト具備シ其ノ活動ヲ視ントスル時期ニ際シ茲ニ各位ト相見ユルコトヲ得タルハ本官ノ滿足トスル所ナリ仍テ聊一言シテ各位ノ注意ヲ促サントス

惟フニ戰時ニ方リテ經營スヘキ事業多種アルヘシト雖要スルニ産業ヲ振興シテ國力ヲ培養スルヨリ急且切ナルモノナシ蓋産業ノ振興ヲ期圖スルハ平時ニ於テモ極メテ重要ナリト雖今回ノ時局ニ際シテ特ニ一段ノ喫緊ナルヲ認ム是レ爰ニ産業督勵委員部ヲ設置シ官民合同ノ力ニ由リテ銳意斯業ノ發展ヲ企圖セントスル所以ナリ

産業上督勵スヘキ事項ヲ算フレハ殆ント枚擧ニ遑アラスト雖徒ニ其ノ多キヲ求メンヨリハ寧ロ最モ緊要ナルモノヽミヲ擧ケテ着々其ノ實行ヲ促スノ優レルニ如カサルナリ故ニ農事ニ關シテハ實行事項六項、奬勵事項十六項、商工ニ關シテハ實行事項三項、奬

勵事項十八項、水產ニ關シテハ奬勵事項九項、林業ニ關シテハ奬勵事項五項ヲ定メテ之ヲ訓示セリ而シテ其ノ實行事項トシテ列擧シタルモノハ總テ最モ緊急施設ヲ要スル事業ニシテ必ス其ノ遂行ヲ期スルヲ目的トシ奬勵事項ハ土地ノ情況ト事業ノ緩急ニ應シテ漸次其ノ實行ヲ勸奬スヘキモノトセリ而シテ實施ノ方法ハ本部委員長ヨリ指示スル所アルヘシ

督勵事項ニ關スル二三ノ要領ヲ說述スレバ

一農事　米麥ハ本縣重要ノ物產ニシテ其ノ收獲ノ豐凶ト品質ノ良否トハ經濟上ニ多大ノ影響ヲ與フルモノナルヲ以テ之カ改善及除害ノ方法ヲ講スルハ產業上極メテ重要ナリ故ニ之ト直接ノ關繫アルモノハ勿論彼此相關聯シテ改良及普及ヲ圖ルヘキモノハ總テ督勵事項中ニ網羅セリ、蠶絲モ亦重要ノ物產ニシテ其ノ消長ハ延テ縣下ノ經濟ニ波及スルコト至大ナルモノアルヲ以テ之カ改良發達ニ關シテ必要ナル事項ヲ督勵シ兼テ栽桑ノ改善ヲ指導セサルヘカラズ產業組合ハ中產以下ノ產業者ヲシテ共同ノ動作ニ由リテ經濟上ノ發達ヲ企圖セシムルニ在ルヲ以テ現今社會ノ情態ニ適應

セル制度ナルノミナラス時局ニ際シ益之ヲ奬勵スルノ必要アルヲ認ム又耕地整理ハ農事改良上ノ基礎ニシテ農事ノ發達ヲ圖ルニ方リ最モ緊要ノ事業ナリ其ノ他或ハ農家ノ副業ヲ勸奬シ或ハ作物ノ良種ヲ繁殖セシムル等一トシテ農事ノ改良發展上適切ノ事項ニアラサルモノナキヲ信ス

二商工　羽二重ハ本縣重要ノ物産ニシテ其ノ盛衰ハ啻ニ縣下經濟ノ消長ニ影響スルコト至大ナルノミナラズ實ニ國家ノ富源ニ關繫スルモノアリ故ニ本業ノ隆昌ヲ企圖センニハ其ノ檢査ヲ厲行シ製織ヲ精良ニシ及精練ノ方法ヲ改善スルヲ以テ刻下ノ急務ト爲ス其ノ他共同下拵場及整理場ノ設置荷造ノ方法等羽二重事業ニ關繫シテ其ノ改善ヲ要スベキモノハ多ク之ヲ網羅セリ又產業組合設立ノ急須ナルハ農事部ニ於テ既ニ記述シタル所ニ異ナルナク又諸工業品製造ノ勸奬及組合事業ノ擴張幷各種機關ノ改善等ハ孰レモ商工業ノ改良發展上適切ノ事項ナリト信ス

三水產　主トシテ漁船漁具及漁法ノ改良ヲ促シ水產製造物ノ改善ヲ奬メ以テ水產事業ノ發展ヲ圖ランスルニ在リ其ノ他鮮魚貯藏方法ノ如キ出稼漁業ノ如キ一トシテ現

下奬勵ヲ加フヘキ緊切ノ事項タラストセンヤ又産業組合ノ設立ヲ勸誘シ漁業組合ノ振作ヲ企圖シ漁村ノ維村ヲ鞏固ニスルハ皆漁民ノ共同的經濟ノ發達ヲ促進スル所以ノ良策タリ

四林業　根本的ニ之ガ振作ヲ圖ルヲ以テ主眼トシ體圍林ノ經營林地ノ整理及副業ノ改良等ヲ勸奬シテ其ノ實行ヲ促スヲ必要トセリ

産業督勵委員部及督勵事項ノ趣旨ニ關シテハ大凡上來述フル所ノ如シ而シテ其ノ實行ノ指導督勵ニ付テハ各位ノ盡力ニ待ツ所極メテ多大ナルモノアリ各位希クハ如上ノ主旨ヲ服膺シ一層鋭意熱心他ノ團体等ト協力シテ着々其ノ實績ヲ收メ以テ縣民ノ富力ヲ培養シ大ニ軍國ノ財源ヲ豊富ナラシメンコトヲ望ム

○福井縣訓令第三十三號

内務部
警察部
郡市役所
警察署
警察分署
町村役場

産業督勵委員部設置規程左ノ通之ヲ定ム

明治三十七年六月二十二日

福井縣知事　阪本釰之助

産業督勵委員部設置規程

第一條　時局ニ對シ特ニ産業ヲ督勵シ其ノ發達ヲ圖ランカ爲産業督勵委員部ヲ設ク

第二條　産業督勵委員部ヲ分チテ本部、支部及町村部トス

本部ハ縣廳ニ支部ハ各郡市ニ町村部ハ各町村ニ置ク

第三條　産業督勵委員部ニ左ノ職員ヲ置ク

本　部	
本部委員長	一　人
本部委員副長	若干人
本部幹事	若干人
本部委員	若干人
支　部	
支部委員長	一　人
支部委員副長	若干人
支部幹事	若干人
支部委員	若干人
町村部	
町村部委員長	一　人

町村部幹事　若干人
町村部委員　若干人

第四條　本部及支部職員ハ知事之ヲ命シ又ハ囑託ス
町村部職員ハ支部委員長之ヲ命シ又ハ囑託ス但シ其ノ氏名及住所等ハ本部委員長ニ報告スヘシ異動アルトキ亦同シ

第五條　本部委員長ハ知事ノ命ヲ承ケ産業督勵委員部ニ關スル一切ノ事務ヲ總理シ督勵委員部員ヲ指揮監督ス

第六條　本部委員副長ハ本部委員長ヲ輔佐シ本部委員長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

第七條　本部幹事ハ上班ノ命ヲ承ケ督勵事務ヲ整理ス

第八條　本部委員ハ上班ノ指揮ヲ承ケ督勵事務ニ從事ス

第九條　支部委員長ハ本部委員長ノ指示ニ從ヒ其ノ部内ニ屬スル督勵事務ヲ處理シ所屬部員及町村部員ヲ監督ス

第十條　支部委員副長ハ支部委員長ヲ輔佐シ支部委員長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

第十一條　支部幹事ハ上班ノ命ヲ承ケ其ノ部内ニ屬スル督勵事務ヲ整理ス

第十二條　支部委員ハ上班ノ指揮ヲ承ケ督勵事務ニ從事ス

第十三條　町村部委員長ハ支部委員長ノ指揮ヲ承ケ其ノ部内ニ屬スル督勵事務ヲ掌理シ所屬部員ヲ監督ス

第十四條　町村部幹事ハ上班ノ命ヲ承ケ其ノ部内ニ屬スル督勵事務ヲ整理シ町村部委員長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

第十五條　町村部委員ハ上班ノ指揮ヲ承ケ其ノ受持區内ニ於ケル督勵事項ノ實行ヲ奬勵スルモノトス

第十六條　支部委員長及町村部委員長ハ其ノ所屬部員ノ受持區域及督勵ノ方法ヲ定メ町村部委員長ハ支部委員長ニ支部委員長ハ本部委員長ニ報告スヘシ

第十七條　支部委員長及町村部委員長ハ時々其ノ部内ニ於ケル督勵事項ノ擧否成蹟等

ヲ調査シ町村部委員長ハ支部委員長ニ支部委員長ハ本部委員長ニ報告スヘシ

第十八條　産業督勵部委員ノ職員ニハ報酬及旅費ヲ支給セス

第十九條　督勵スヘキ事項等ハ別ニ之ヲ定ム

産業督勵委員部督勵事項

農事ニ關スル部

實行事項

一　米麥種子ノ鹽水撰

二　短冊形苗代ノ普及

三　麥黑穗ノ豫防

四　病蟲害ノ防除

五　螟蛉ノ防除

六　輸出米檢查ノ厲行

奬勵事項

一　堆肥ノ改良及普及
二　綠肥ノ普及並海草肥料ノ施用
三　蠶病ノ消毒
四　野鼠ノ驅除
五　蠶糸業ノ改良
六　産業組合ノ設立
七　耕地整理ノ施行
八　二毛作ノ力行
九　牛馬耕ノ實施
十　短冊形共同苗代ノ設置
十一　移植ノ延期
十二　農具ノ改良

十三　桑樹ノ栽培及害蟲害菌ノ防除

十四　家畜家禽ノ改良（家禽ハ主トシテ牛、馬及豚ニ就テ）

十五　重要作物果樹蔬菜等良種ノ繁殖

十六　稻苗ノ正條植

○産業督勵委員部督勵事項實施方法

農事ニ關スル部

實行事項

一　米麥種子ノ鹽水撰

一　鹽水撰ハ各町村内大字若ハ小字毎ニ共同ノ方法ニ依リ施行セシムルモノトス

二　共同鹽水撰場ニハ豫メ食鹽、水桶、笊等ヲ備置キ當該期日ニハ各自ニ鹽水撰ヲ行ハシムルモノトス

三　鹽水ノ強度ハ米麥各異ナレトモ普通ノ品種ニテ凡ソ七割沈下シ三割浮上スルヲ以テ程度トス即チ其ノ比重ヲ擧クレハ大約左ノ如シ

水稻粳米及大麥鹽水撰比重一、一〇乃至一、一三

（水一斗ニ食鹽三升乃至四升ノ割合）

陸種及水稻糯米鹽水撰比重一、〇八乃至一、一〇

（水一斗ニ食鹽二升乃至三升ノ割合）

四　裸麥ハ苦鹽汁ヲ用キテ撰種セシムルモノトス

五　撰種ノ時期ハ水稻ニ在リテハ浸種ニ際シテ之ヲ行ヒ麥ニ在リテハ播種期前ニ行ハシム但シ麥ハ夏期ニ於テ黑穗豫防ヲ兼テ行フヲ便トス

六　鹽水撰後直ニ浸種若ハ播種セサル種子ハ水ニテ洗ヒ能ク乾燥シテ貯藏セシムルヲ要ス

二　短冊形苗代ノ普及

一　苗代ノ幅ハ三尺五寸以內床間ノ距離ハ一尺以上トシ適宜ノ短冊形ニ整地セシムルモノトス

二　種籾ハ或ルヘク薄播トシ即チ苗代蒔床一坪ニ對スル播種量ハ大約四合ヲ以テ適度トス

三　麥黑穗ノ豫防

一　麥黑穗ハ穗揃期ニ於テ拔取燒棄ヲ行ハシムルモノトス

二　麥黑穗豫防ハ夏季炎熱甚シキ日ヲ撰ヒ種子ヲ夜十時頃ニ水ニ浸シ置キ翌朝早ク取

上ケ水分ヲ脱却セシメ直ニ擴ケテ日光ニ曝乾シ若光熱弱キヲ認メハ尚一回曝乾セシムルヲ要ス

四　病蟲害ノ防除

一　左記ノ害蟲ニ對シテハ明治三十五年七月十八日本縣令第六十六號害蟲種類及驅除豫防方法ニ依リ之カ防除ヲ厲行セシムルコト

（イ）螟　蟲

（ロ）浮塵子

（ハ）苞　蟲

二　害蟲ニ關スル通俗幻燈會ヲ開催シテ之カ觀念ヲ啓發セシムルコト

二　害蟲ニ關スル講話會又ハ講習會ヲ開設シテ害蟲ノ習性特徴及其ノ被害ノ狀況等ヲ知得セシムルコト

四　小學校兒童ヲシテ授業ノ餘暇ヲ以テ害蟲驅除ヲ實習セシムルコト

五　農作物病害防除ニ關シテハ左ノ方法ニ依ラシムヘシ

（イ）稻熱病

（一）氣候冷濕ニシテ稻熱病發生ノ虞アルトキハ除草ノ回數ヲ增シ又中耕ヲ行ヒ地温ノ昇騰ヲ計ルコト

（二）稻熱病發生ノ虞アル水田ニ於テハ該病ニ耐ユルコト强キ種類ヲ撰ヒテ植エ施肥ヲ饒多ナラシメス追肥ヲ遲カラシメス綠肥廐肥等ノ如キ有機質肥料ヲ避ケシムルコト

（三）山間、堤外、山麓等ノ稻田ニシテ冷水ノ流入スル處ニハ畔ヲ設ケテ之ヲ他ニ放流スヘク若其ノ水ヲ灌漑スルニ非サレハ他ニ用水ナキ場合ニハ一旦之ヲ水溜ニ導キ或ハ溝ヲ設ケテ流域ヲ延長シ水ノ温マリタル後ニ稻田中ニ流入スルノ工夫ヲ爲スコト堀拔井ノ湧水ヲ灌漑スル場合モ亦同シ

（四）病徵ヲ現ハシタル稻株ハ之ヲ刈取リ燒キ棄ツルコト

（ロ）麥ノ赤澁病（銹菌病）

（一）成ルヘク此ノ病ニ侵サレ難キ强剛ノ種類ヲ撰ヒテ栽培スルコト

(二)　此ノ病徴ヲ顯ハシタルトキハ病麥ハ之ヲ刈取燒却シ其ノ蔓延ヲ防止スルコト

(ハ)　麥ノ黑穗病

(一)　督勵事項第三ニ揭ケタルヲ以テ此ニ之ヲ略ス

五　蠶蛆ノ防除

一　蠶種製造業者、製糸業者、養蠶者及生繭取扱者ヲシテ左ノ設備ヲ爲シ蠶蛆ノ滅殺ヲ厲行セシムルコト

(イ)　生繭載架ノ下ニ蠶蛆ヲ集殺スヘキ容器ヲ設クルコト

(ロ)　生繭置場ニハ蠶蛆ノ散逸ヲ防ク施設ヲナス

(ハ)　生繭ヲ運搬スルトキハ蠶蛆ノ散逸セサル容器ヲ用ウルコト

二　收容シタル蠶蛆ハ之ヲ殺スヘシコト

六　輸出米檢查ノ厲行

一　福井縣米商組合聯合會ヲ組織セシムルコト

二　輸出米檢查ハ米商組合聯合會ヲシテ實行セシムルコト

三　輸出米檢査ニ關スル規定ヲ設ケシムルコト

四　輸出米檢査員ノ品位ヲ高メシムルコト

五　輸出米檢査員採用規程ヲ設ケシムルコト

六　輸出米檢査員服務規程ヲ設ケシムルコト

奨勵事項

一　堆肥ノ改良及普及

一　各郡町村農會農事試驗場等ニ於テ簡易ナル模範堆肥場ヲ設ケ且試作場ニハ必ス適量ノ堆肥ヲ配用シテ其ノ效用ヲ示スコト

二　每戸ニ於テ簡易ノ方法ニ依リ堆肥ヲ製造セシムルコト

（備考）

堆肥場ノ構造方法等ニ關シテハ本縣内務部第四課編纂「肥料上ノ注意事項」中參照ヲ要ス

二　綠肥ノ普及並海草肥料ノ施用

一　排水ノ便アル土地ニシテ普通裏作ヲ爲サヽル田地ハ左ノ方法ニ依リ勉メテ綠肥ヲ栽培セシムルコト

（イ）乾田ニシテ紫雲英ノ生育ニ適スルモノハ紫雲英ヲ播種スルコト

（ロ）稍濕田ニシテ紫雲英ヲ生育ニ適セサルモ之ヲ畔上ケテ裏作スルニ適スルモノ

ハ綠肥用トシテ蠶豆、豌豆、苜蓿ノ類ヲ播種スルコト

二　田地ハ濕潤ニシテ裏作スベカラザルモ畑地ニ餘裕スル地方ニ於テハ左ノ方法ニ依リ綠肥ヲ栽培セシムルコト

（イ）畑地ニ綠肥用トシテ蠶豆、豌豆ノ類ヲ播種シ稻田ノ基肥ニ供スルコト

（ロ）畑地ニ綠肥用トシテ大豆ヲ播種シ稻田ノ追肥ニ供スルコト

三　種子ハ成ルヘク共同購入セシムルコト

四　海草「アジモ」、「ホンダワラ」及淡水草「ヤナギモ」等ノ類ヲ乾燥シテ肥料ニ供用セシムルコト

三　蠶病ノ消毒

一　蠶病消毒ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行ハシムルコト

（イ）蠶室ハ充分ナル掃除ヲナシ稀釋セル「フオマリン」液ノ撒布法ヲ行フ若蠶具モ共ニ消毒セントスルニハ「フオルマリン」液蒸發法ヲ行フヲ便トス

（ロ）蠶具ハ勉メテ日光ニ曝露シ兼テ適宜ノ裝置ヲナシ攝氏百度ノ蒸氣ヲ以テ三十

分間以上蒸スヘシ莚ノ如キモノハ「フオルマリン」液撒布重積法ニ依ルモ可ナリ

四　野鼠ノ驅除

一　野鼠ノ驅除ハ窒扶斯菌ヲ以テ一區域ヲ限リ一齊ニ之ヲ行ハシムルコト

五　蠶糸業ノ改良

一　養蠶ノ普及ヲ計ル爲農家ヲシテ毎戸多少ノ養蠶ヲ爲サシムルコト

二　蠶種ハ成ルヘク框製蠶種ヲ飼育セシメ且其ノ種類ノ一定ヲ圖ランカ爲ニ郡町村又ハ部落等ニ於テ勉メテ同一蠶種ノ共同購入ヲ行ハシムルコト但シ蠶種ハ主トシテ小石丸、青熟、又昔、白玉ヲ用ウルヲ可トス

三　完全ナル貯藏器若ハ貯藏庫ヲ設置シ蠶種ノ共同貯藏ヲ爲サシムルコト

四　稚蠶共同飼育場ヲ設ケ兼テ教師ヲ聘シ育蠶方法ヲ傳習セシムルコト

五　土地ノ狀況ニ應シテ夏秋蠶ノ飼育ヲ勸奬スルコト

六　蠶繭ハ成ルヘク共同販賣ヲナサシムルコト

七　座繰又ハ足踏器械ヲ以テ製造スル製糸家ヲシテ成ルヘク共同揚返場ヲ設ケシメ生糸品位ノ一定ヲ計ルコト

八　製糸業者ヲ結合シテ重要物産同業組合ヲ設立セシムルコト

九　共同穀蚕場ヲ設置セシムルコト

六　産業組合ノ設立

一　各郡市ニ模範組合ノ設立ヲ勧奨スルコト

二　講習會又ハ研究會等ヲ開催シテ産業組合ノ趣旨ヲ普及セシムルコト

三　農業ニ關スル産業組合ノ事業ヲ例示セハ左ノ如シ

(イ)　信用組合　農業ニ必要ナル資金ノ供給、勤儉貯蓄

(ロ)　販賣組合　農産物及農産製造物ノ共同販賣

(ハ)　購賣組合　肥料、種苗、農具種畜ノ共同、購買、生計品ノ共同購買、

(ニ)　生産組合　農業用器具器械、種畜牧畜等ノ共同使用、農産

製造其ノ他農產物加工、蠶室器具ノ消毒、蠶繭ノ共同殺蛹乾燥、

（備考）

產業組合ニ關シテハ本縣內務部第四課編纂「產業組合法規」參照ヲ要ス

七　耕地整理ノ施行

一　講話會等ノ方法ニ依リ主トシテ耕地整理ノ趣旨ヲ一般ニ貫徹セシムルコトヲ圖リ漸次其ノ實行ヲ勸奬スルコト

二　耕地整理ヲ施行セサル郡ニ於テハ模範耕地整理ヲ實施シ其ノ利益ヲ周知セシムルコト

三　既設整理地ニ於テハ可成的規約ヲ設ケ耕地整理ノ利益ヲ發揮セシムルコト

（備考）

耕地整理ニ關シテハ本縣內務部第四課編纂「耕地整理法土地區劃改良法關係法規類抄」參照ヲ要ス

八　二毛作ノ力行

一　濕田ハ成ルヘク排水シテ乾田トナシ新ニ二毛作ヲ行ハシムルコト

二　二毛作ノ種類ハ麥類及蔓莖ヲ主トシ之カ栽培ヲ勸奬スルコト

九　牛馬耕ノ實施

一　勞力ノ經濟ヲ計ル爲牛馬耕ノ實施ヲ勸奬スルコト

二　郡町村農會試作場ニ於テハ牛馬耕ノ實施ヲ示シ且時々牛馬耕傳習會等ヲ開催スルコト

三　山手ニ近キ地方ハ馬ヲ用ヰ廣濶平坦ノ地方ハ牛ヲ用ウルヲ可トス又畑地ニ專用スルニハ馬ヲ可トスレトモ普通田畑ニ併用スルトキハ實際ノ情況ニ應シ牛馬孰レカヲ決定スルヲ要ス

四　種類ハ牛ハ但馬種ヲ可トシ馬ハ南部種及北海道種ヲ可トス

十　短冊形共同苗代ノ設置

一　苗代ノ仕立方等ハ實行事項第二各號ニ掲クル所ト異ルコトナシ

二　共同ノ區域ハ各町村内小字ニ於テ適宜之ヲ設ケシムルコト

三　共同區ノ苗代ハ播種及移植ニ遲速ナカラシムルコト

四　共同苗代ノ灌漑、排水、除草及害蟲防除等ハ共同者申合セ交代ニ之ヲ爲サシムルコト

十一　移植ノ延期

一　稻苗ノ移植ハ從來一般ニ早キニ失スルノ弊習アル故ニ稻苗ノ移植ハ適當ノ時期迄延期セシムルヲ要ス

二　稻苗移植ニ適當ナル時期ハ特別ナル事情アル田地ヲ除クノ外ハ稻種ノ早中晩ヲ通シテ大約六月八日ヨリ六月十五日ニ至ル間ヲ可トス

三　早植ノ弊アル地方ハ近隣申合セ漸次期節ヲ延期センコトヲ勸奬スルコト

十二　農具ノ改良

一　犁耙、除草器、脫穀器ノ改良ヲ勸奬スルコト

二　縣郡農會等ニ改良農具陳列所ヲ設ケ或ハ農具品評會等ヲ開キ以テ良種農具ノ普及圖ルコト

十三　桑樹ノ栽培及害蟲害菌ノ防

一　普通ノ農作物ニ適セサル土地及家屋ノ周圍等ニハ成ルヘク桑樹ヲ栽培セシメ兼テ蠶業ノ發達ヲ勸奬スルコト

二　夏秋蠶ヲ飼育スル地方ニ於テハ之ニ充ツヘキ桑園ヲ準備セシムルコト

三　栽桑ノ方法ヲ改善セシムルコト

四　桑樹ニ於ケル害蟲害菌ノ驅防ヲ勵行セシムルコト但シ其ノ方法等ヲ列擧セハ左ノ如シ

（甲）害　蟲

（イ）桑　天　牛

（一）時々桑樹ヲ檢シ其ノ卵ヲ採取シテ潰殺スルコト

（二）幼蟲（鐵砲蟲トモ云フ）ノ穿テル孔内ニ針金ヲ入レ之ヲ殺シ或ハ孔口ヲ粘土若ハ鬢附油ニテ密封シ空氣ノ流通ヲ妨クルトキハ之ヲ斃死セシムルコトヲ得ヘシ

（三）未明ニ桑園ヲ見廻ハリ成蟲ヲ捕殺スルコト

（ロ）桑葉卷蟲

（一）此ノ蟲ノ卵ハ桑ノ幹枝ニ產ミ付クルモノナレハ冬日之ヲ搜索シテ潰殺スヘシ

（二）春期新芽萌發ニ際シ新梢ニ枯縮スル桑葉ヲ認メハ速ニ之ヲ取集メ葉卷蟲ヲ殺スヘシ

（三）葉卷蟲ノ蛾（五六月頃發生）ヲ認メハ誘蛾燈ヲ点シ誘殺スヘシ

（乙）害菌

（イ）膏藥病

（一）小刀ヲ以テ膏藥体ヲ削リ或ハ縱橫ニ開キ切リ其ノ跡ヘ石灰水、木灰汁、「アルコール」、醋酸等ヲ塗抹シ菌糸ヲ殺スコト

（二）若蔓延ノ兆アルトキハ病株ヲ堀取リ其ノ跡ニ石灰ヲ鋤込ミ別ニ健全ナル桑苗ヲ植付クルコト

十四　家畜家禽ノ改良

一　家畜ニ關シテハ主トシテ牛馬及豚ノ改良ヲ勸奬スルコト

二　牛ハ主トシテ乳肉用ノ蕃殖ヲ圖ルヲ以テ目的トシ適當ノ種類ヲ撰ミテ飼養セシムルコト

三　馬ハ主トシテ駄馬及輓馬ノ蕃殖ヲ圖ルヲ以テ目的トシ成ルヘク之ニ適スル馬匹ヲ飼養セシムルコト

四　産牛馬組合ニ於テ二號三號ニ適合スル種牡牛馬ヲ飼養シテ之カ蕃殖ヲ圖ルコト

五　三歳若ハ四歳ノ牡馬ハ種馬ニ適スルモノヽ外成ルヘク去勢ノ施行ヲ勸奬スルコト

六　各郡農會ニ於テ「バークシャー」種豚ヲ飼養シ其ノ孑豚ヲ各農家ニ分與シテ之カ飼育ヲ勸奬スルコト

七　各郡農會ニ於テ成ルヽク善良ナル各種ノ種雞ヲ飼育シ其ノ種雞及種卵ヲ各農家ニ配布シテ戸毎ニ數羽ノ家雞ヲ飼養セシムルコト但シ種類ハ「名古屋コーチン」、「ミノルカ」、「レグホン」ヲ主トシテ飼養スルコト

十五　重要作物果樹蔬菜等良種ノ繁殖

一　講話會又ハ品評會等ヲ開設シテ種類改良ノ念ヲ喚起セシムルコト

二　販賣若ハ用途ヲ察シ風土事情ニ鑑ミ新作物ヲ栽培シテ利益ヲ收メシムルコト

三　各級農會ヲシテ確實ニ有利ト認ムル良種種苗ヲ其ノ栽培ニ適當セル地方ニ配付セシメ且當業者ノ希望ニ依リ良種種苗ノ購入ヲ媒助セシムルコト

十六　稻苗ノ正條植

一　稻苗ハ四方正條植ニ爲サシムルヲ必要トスト雖先ツ堅繩張ニ依リテ南北ノ一方ニ正條ナラシムルモノトス

二　田區ノ形狀ニ依リ南北ニ正條ナラシムルコト能ハサル場合ニ於テハ便宜ニ正條ナラシムルヲ要ス

商工業ニ關スル部

實行事項

一　羽二重檢査ノ勵行

二　羽二重織業ノ整理

三　羽二重職工貯金ノ實施

奬勵事項

一　羽二重檢査派出所ノ減少
二　羽二重標準量目ノ改正
三　羽二重組織ノ改善
四　羽二重荷造方法ノ改善
五　練業者ノ合同
六　練工場設備ノ改善
七　海外ニ於ケル羽二重需供ノ情況速知方法ノ設定
八　羽二重共同下捺場ノ設置
九　羽二重共同整理場ノ設置
十　産業組合ノ設立
十一　羽二重市場ノ改善
十二　機業場設備ノ改善

十三　機具ノ改善

十四　職工ノ貯金及衛生ノ普及

十五　組合基本財産ノ創設

十六　既設同業組合事業振作

十七　輸出工業品製造ノ勸奬

十八　組合員ノ子弟ヲ工業學校若ハ商業學校ヘ入學ノ勸奬

○産業督勵委員部督勵事項實施方法

商工ニ關スル部

實行事項

一　羽二重檢査ノ勵行

一　檢査員採用規程ヲ設ケシムルコト

二　檢査員服務規程ヲ設ケ考課ヲ嚴正ナラシムルコト

三　檢査員ノ品位ヲ高メシムルコト

四　檢査員ハ一ケ所ニ二名以上派出セシムルコト

五　檢査品ノ試驗ヲ施行セシムルコト

六　檢査方法ノ細則ヲ設ケシムルコト

七　丈尺ノ檢査ヲ嚴正ナラシムルコト

八　在荷檢査ヲ施行セシムルコト

二　練業ノ整理

一　受檢査品提出ニ關スル事項ヲ厲行セシムルコト

二　練業者申合規約ヲ厲行セシムルコト

三　羽二重職工貯金ノ實施

一　現行ノ組合員及職工貯金規約ヲ厲行シテ普ク職工ニ貯金　爲サシムルコト

二　部長又ハ什長ヲシテ其ノ部内ニ於ケル貯金實行ノ責ヲ負ハシムルコト

奬勵事項

一　羽二重檢査派出所ノ減少

一　現今羽二重檢査派出所ノ數ハ多キニ過クルヲ以テ之ヲ減少セシムルコト

二　羽二重標準量目ノ改正

一　現行羽二重檢查標準量目ハ之ヲ適當ニ改正セシムルコト

三　羽二重組織ノ改善

一　各種羽二重ニ付目付ニ從ッテ筬ノ幅及羽數ヲ一定セシムルコト

二　各種羽二重各目付ニ從ッテ一寸間ニ於ケル緯糸ノ數ノ標準ヲ定メシムルコト

四　羽二重荷造方法ノ改善

一　羽二重ノ荷造ハ一個ニ對スル重量ノ限度ヲ設ケシムルコト

二　外包ハ紙質堅靭ニシテ防濕ノ目的ニ堪ユヘキ油紙ヲ使用セシムルコト

五　練業者ノ合同

一　現今練業者ノ數ハ多キニ過クルヲ以テ之ヲ共同セシムルコト

六　練工場設置ノ改善

一　練槽ハ木製トシテ蒸汽加熱裝置ヲ施サシムルコト

二　水絞機（セントリヒユガル式）ヲ使用セシムルコト

三　乾燥室ハ換氣口ノ外其ノ四壁戸牖ハ破損、陷缺ナカラシムルコト

七　海外ニ於ケル羽二重需供ノ情況速知方法ノ設定

一　練習生又ハ海外居留人ニ托シ速知ノ方法ヲ設ケシムルコト

八　羽二重共同下拵場ノ設置

一　羽二重共同下拵場ハ會社又ハ生產組合ノ組織ト爲サシムルコト

二　下拵場ニハ左記ノ機械ヲ設備セシムルコト

（イ）生糸繰返機

（ロ）再繰返機

(ハ) 合糸機
(ニ) 糊付機
(ホ) ボヒン巻機
(ヘ) 整經機
(ト) 管巻機
(チ) 發動機

九　羽二重共同整理場ノ設置

一　羽二重共同整理場ハ會社又ハ生産組合ノ組織ト爲サシムルコト

二　整理場ニハ適當ノ機械ヲ設備セシムルコト

十　産業組合ノ設立

一　各郡市ニ模範組合ノ設立ヲ勸奬スルコト

二　講習會又ハ研究會等ヲ開催シテ産業組合ノ趣旨ヲ普及セシムルコト

三　商工業ニ關スル産業組合ノ事業ヲ例示セハ左ノ如シ

(イ)　信用組合　商工業ニ必要ナル資金供給、勤儉貯蓄

(ロ)　販賣組合　製造物ノ共同販賣

(ハ)　購買組合　原料及諸機具ノ共同購入、生計品ノ共同購買

(ニ)　生産組合　製造物ノ共同加工、諸機具共同使用

十一　羽二重市場ノ改善

一　市場ノ組織ヲ完全ニシ確實ナル取引ヲ爲サシムルコト

十二　機業場設備ノ改善

一　避難ノ方法ヲ設ケシムルコト

(イ)　工場内ニハ適當ノ通路ヲ設ケ避難ヲ容易ナラシムルコト

(ロ) 昇降口ニハ段梯子ヲ用ヰ六十度以下ノ傾斜ト爲サシムルコト

(ハ) 階上ヲ工場ニ充ツルトキハ其ノ長キ両端ニ於テ各昇降口ヲ設ケ尚必要ニ應シ相當ノ昇降口ヲ設ケシムルコト但シ少數ノ職工ヲ收容スルモノニ在リテハ一昇降口ヲ梯子又ハ非常用繩梯子ヲ以テ代用スルコトヲ得

(ニ) 出入口ノ外ニ非常口ヲ適當ニ設ケシムルコト

(ホ) 五十歳以上ノ職工又ハ幼工ハ可成階上勤務ニ使用セシメサルコト

二 火災豫防ニ關スルコト

(イ) 洋燈ノ石油容器ハ金屬製ニ限ラシムルコト

(ロ) 工場ニハ相當ノ防火器ヲ備エシムルコト

十三 器具ノ改善

一 「チキリ」「フクマキ」等ハ直圓壔形ニシテ直徑四寸以上ノモノヲ使用セシムルコト

二 機臺ハ厚板紙ヲ使用セシムルコト

三　綜絖ハ可成窓ノ小ナルモノヲ使用セシムルコト

四　機臺ニ巻取機ヲ裝置セシムルコト

十四　職工貯金及衛生ノ普及

一　組合其ノ他團体ノ組織アルモノハ其ノ團体ニ於テ職工貯金規程ヲ設ケ又團体ノ組織ナキモノハ傭主ニ於テ職工ニ貯金ヲ爲サシムルコト

二　職工ノ衛生ニ關シテハ左ノ事項遂行セシムルコト

(イ)　工場及寄宿舍ハ明照換氣ノ方法ヲ充分ナラシムルコト

(ロ)　工場及寄宿舍内ノ掃除ヲ嚴ニシ其廣狹ニ應シ適當ノ職工ヲ配置セシムルコト

(ハ)　便所及下水ノ掃除及消毒ヲ嚴ニセシムルコト

(ニ)　幼工ハ過度ノ勞働ニ從事セシメサルコト

(ホ)　沐浴ヲ怠ラス又被服ノ洗濯ニ注意セシムルコト

(ヘ)　飲食物其ノ他攝生ニ注意セシムルコト

十五　組合基本財産ノ創設

一　基本金ハ左ノ金員ヲ積立テシムルコト

(イ)　寄附金

(ロ)　基本金ヨリ生スル利子

(ハ)　歳入出決算上翌年度ヘ繰越金アルトキ其ノ百分ノ三十以上

(ニ)　違約金

二　基本金ハ國庫債券、地方債証券及勸業債券ヲ買入レ又ハ郵便貯金ト爲シ利殖セシムルコト

三　基本金ハ前項ノ外地方長官ノ認可ヲ經ルニアラサレハ支出スルヲ得サラシムル事

四　基本金設置規程ノ設定及變更ハ地方長官ノ認可ヲ得セシムルコト

十六　既設同業組合事業ノ振作

一　同業組合ニ於テハ其ノ目的及方法ノ腐行ニ努メシムルコト

二　製品ノ統計ヲ完全ナラシムルコト

三　會計其ノ他ノ帳簿ヲ整頓セシムルコト

四　檢査ヲ行フ組合ニ於テハ其ノ檢査ヲ厲行セシムルコト

十七　輸出工業品製造ノ勸奬

一　現ニ輸出シ及將來輸出ノ見込アルモノニ就キ其ノ製造ヲ勸誘スルコト

二　輸出品ニ關シテハ其ノ同業者ノ團体ヲ組織セシムルコト

十八　組合員ノ子弟ヲ工業學校若ハ商業學校ヘ入學ノ勸奬

一　組合員ノ子弟ヲ工業學校若ハ商業學校ニ入學シ必須ノ人物ヲ養成セシムルコト

二　組合員ヲシテ相當學資補助ノ方法ヲ設定セシムルコト

水産ニ關スル部

奬勵事項

一　漁船漁具及漁法ノ改良

二　輸出水産物製造ノ改良

三　生魚ノ貯藏及運搬法ノ改良

四　北海道、韓國、沿海洲、薩哈嗹島ヘ出漁ノ勸奬

五　水族養殖ノ勸奬

六　漁民副業ノ勸奬

七　産業組合ノ設立

八　漁村ノ維持

九　漁業組合事業ノ振作

◎産業督勵委員部督勵事項實施方法

水産ニ關スル部

奬勵事項

一　漁船漁具及漁法ノ改良

一　漁船ヲ改良スヘキ要点ヲ例示セハ左ノ如シ

甲　沖乘漁船

(一)　船幅ヲ擴メ吃水部ヲ深クスルコト

(二)　船敷ノ厚サヲ增シ助材ヲ以テ船棚ヲ固ムルコト

(三)　甲板ヲ張リ空氣室ヲ設クルコト

(四)　活間ヲ設クルコト

(五)　艫部ニ食料、衣服、燃料ノ容レ間及水槽、炊事場ヲ設備スルコト

(六)　西洋形帆裝ノモノニハ中柁ヲ設クルコト

(七)　船釘ハ亞鉛鍍ノモノヲ用ユルコト

(八) 從來ノ莫蘆帆ハ木綿帆ニ改ムルコト

(九) 網具ハ從來ノ蕉網ヲ棕梠網又ハ麻苧網ニ改ムルコト

乙 磯乘漁船

(一) 船体ハ極メテ輕快ニ構造スルコト

(二) 吃水ヲ淺クスルコト

(三) 三角帆ヲ用ユルコト

二 巾着網、改良揚繰網、焚入網、流網、配繩、打瀨網、漁業ノ發達ヲ圖ルコト

三 從來ノ油餌使用ヲ廢シ他ニ良好ノ餌料ヲ使用セシムルコト

四 講話會又ハ幻燈會ヲ開催シテ改良ノ觀念ヲ興起セシムルコト

二 輸出水產物製造ノ改良

一 鯣ハ從來ノ簀乾製ヲ吊乾製ニ改良スルコト

二 海參ノ製造ハ從來ノ煎製ヲ廢シ水煮、簀乾ノ製法ヲ爲スコト

三 鱶鰭ノ製造ハ肉部及尾推骨ヲ截除シ乾燥ヲ充分ニナスコト

四　蟹、海老ノ鑵詰ハ罐材ヲ精選シ貯藏ニ耐ユル製造ヲナスコト

五　鹽鯖ノ製造ハ用鹽ヲ精撰シ可成立鹽漬ニ製造スルコト

三　鮮魚ノ貯藏及運搬法ノ改良

一　適當ノ場所ヲ撰ミ活魚放養場ヲ設ケシムルコト

二　魚肉冷藏法ヲ普及スルコト

三　鮮魚ノ運搬方法ヲ改良スルコト

四　北海道、韓國、沿海洲、薩哈嗹島ヘ出漁ノ勸奬

一　北海道ノ出漁

（一）有船出漁者ニ在リテハ出漁先、漁業ノ種類ニ依リ一定ノ港灣ニ集合セシメ一團ト爲シテ出漁地ニ航行セシムルコト

（二）無船出漁者ニ在リテハ渡航地ニ依シテ區別シ便宜團体ヲ作ラシメ出漁者ノ便宜ヲ圖ルコト

（三）出漁者一團体毎ニ二名以上ノ取締人ヲ設ケシメ出漁中諸般ノ取締ヲ爲サシムル

コト

二　韓國沿海州、薩哈嗹島ノ出漁

(一)　各海面ノ漁業狀態ヲ調査シ之ヲ當業者ヘ周知セシムルコト

(二)　漁業視察員渡航ノ勸奬

(三)　出漁希望者ヲ一團ト爲シ相當ノ便宜ヲ與ヘ試驗出漁ヲ爲サシムコト

五　水族養殖ノ勸奬

一　鰻、鯉、泥鰌ノ養殖ヲ勵奬スルコト

六　漁民副業ノ勸奬

一　漁民ヲシテ補食物ノ栽培ヲ努メシムルコト

二　漁業ノ閑隙ニハ編網繩絢等ノ業ヲ勸奬スルコト

三　水產廢物ノ利用ヲ爲サシムルコト

(一)　鮑介殼ヲ採集シテ販賣ヲ爲サシムルコト

(二)　魚腸ヲ以テ醢又ハ乾肥ヲ製スルコト

(三) 廢網廢繩ヲ利用スルコト

七 産業組合ノ設立

一 各郡ニ模範組合ノ設立ヲ勧奨スルコト

二 講習會又ハ研究會等ヲ開催シテ産業組合ノ趣旨ヲ普及セシムルコト

三 水産ニ關スル産業組合ノ事業ヲ例示セハ左ノ如シ

(イ) 信用組合　水産業ニ必要ナル資金ノ供給　勤儉貯蓄

(ロ) 販賣組合　漁獲物及水産製造物ノ共同販賣

(ハ) 購買組合　漁船々具ノ共同購買　漁具原料ノ共同購買　製造用具ノ共同購買
生計品ノ共同購買

(ニ) 生産組合　鮮魚冷藏所ノ共同使用　製造品乾燥所ノ共同使用
製造品貯藏所ノ共同使用　製造器具ノ共同使用
水産物運送船ノ共同使用

八 漁村ノ維持

一　漁民風俗ノ矯正

(一)　漁村ニ行ハルヽ總テノ弊俗ヲ矯正スルコト

二　共同貯蓄ノ勸奬

(一)　漁獲物製造品賣上代金ノ幾分ヲ蓄財セシムルコト

(二)　磯物類ノ共同採取法ヲ設ケ賣上代金ヲ積立ツルコト

(三)　魚付林ノ保護

(四)　船揚場ノ築造

(五)　功勞者薦表

九　漁業組合ノ振作

一　各郡ニ於テ年一回以上郡内組合理事ノ協議會ヲ開設シ事務上ノ攻究ヲ爲サシムルコト

二　每年一回縣下全部ノ理事協議會ヲ便宜ノ地ニ開キ諸般ノ事項ヲ協定セシムルコト

林業ニ關スル部

奬勵事項

一　植樹ノ奬勵並ニ町村林組合林學校林等ノ設置

二　山林ノ輪伐齡設定

三　林地ノ整理

四　木炭ノ改良及其產業組合ノ發達

五　椎茸事業ノ永久的經營

○産業督勵委員部督勵事項實施方法

林業ニ關スル部

奬勵事項

一　植樹ノ奬勵並ニ町村林、組合林、學校林等ノ設置

一　植樹ノ奬勵ハ左ノ各項ニ留意シ且時々講話會ヲ開キテ一般思想ノ開發ヲ計ルコト

(イ)苗木ハ努メテノ自作モノヲ用ウルコト

(ロ)苗圃地ハ成ルヘク新開ノ林野地ニ於テスルコト但シ已ムヲ得ス田地ニ於テスル場合ハ過濕ニ陷ラサル樣注意ヲ要ス

(ハ)播種地ハ成ルヘク年々場所ヲ轉シ且肥料ハ通常施サヽルヲ可（稀ニ稀最薄ノ糞尿ヲ用ウルハ妨ケナキモノ）トス

(ニ)種子ハ各地ニ於テ躬ラ採取スルコトヲ努メ其ノ母樹ハ陽地ニ生シタル完全ナル樹形ノモノヲ撰フコト但シ樹齡ハ老幼ニ偏セサルヲ可トス

(ホ)山地植栽ハ整地即チ荊棘蔓草ノ刈除ヲ充分ナラシムルコト但シ畑地ニ開墾シテ

植ユルカ如キハ最不可ナリトス

(ヘ) 植栽後數年間ハ毎年一回乃至二回必ス下刈ヲ行フコト

(ト) 枝打ハ枯枝ハ猶豫ナク行フヲ要スルモ生枝ハ外圍ノ樹木ニシテ林内通氣ノ妨害トナルモノニ限リ樹幹全長ノ三分一乃至二分一ノ程度ニ於テ之ヲ行ヒ其ノ他一切生枝ノ枝打ヲ行ハサルコト

(チ) 植栽ノ疎密ハ通常左ノ程度ニ依ルコト

降雪多キカ又ハ急傾斜ノ地ニ在テハ一坪ニ付一本

但シ此場合ハ伐期ヲ長ク見込マサルヘカラス

降雪尠ク又ハ緩傾斜ナルニ從ヒ一坪ニ付二本乃至三本

但シ此場合ニ於テハ伐期亦較々短縮スルコトヲ得

(リ) 一坪三本以上ノ密植ハ縣下ニ於テハ適當（林業ノ目的ニ）セス

(ヌ) 植栽樹種ハ主トシテ本縣植樹奬勵規則ニ規定ノ種類ヲ選フコト

各地適種ノ撰擇ハ努メテ在來種ニ就キ撰良スルコト

但シ神社、佛閣等ノ禁伐地若ハ人跡稀ナル深山ニシテ古來斧鉞ノ入ラサル所（所謂原生林）ニ生セル樹種ヲ詮索スルハ樹種撰擇ノ一方法ナリトス

二　征露紀念事業並ニ完全林業ノ摸範トシテ町村林組合林學校林等ノ設置ヲ奬ムルコト其ノ方法左ノ如シ

（イ）現在町村有ノ山林ハ勿論大字有ノ山林ト雖特別ノ事由アラサル限リハ總テ之ヲ町村林ト爲スコト

（ロ）數町村ノ共有又ハ入會ノ山林ハ其ノ所有權ヲ分割シテ各町村林ト爲シ又ハ關係町村ノ組合林ト爲スコト其ノ入會權ノ存續ヲ要スルモノハ更ニ民法ニ遵ヒ權利ノ設定ヲ爲スコト

（ハ）個人有又ハ數人共有ノ山林ニシテ一輪伐齡ヲ設クルニ足ラサル小面積ノモノハ努メテ町村林ニ買受クルカ若ハ更ニ大ナル數人共同ノ組合林ト爲スコト

（ニ）學校林ハ成ルヘク大字有又ハ入會ノ山林若ハ個人有ニシテ一經濟ヲ營ムニ足ラサルモノ等ヨリ譲與若ハ買受クル方針ヲ取ルコト

（ホ）町村林ハ勿論其ノ他総テ團体林ハ必ス條例又ハ規約等ヲ設ケテ其ノ監理幷ニ殖林ノ方法ヲ規定スルコト

但シ町村林ハ内務省制定（明治三十七年三月十一日官報彙報欄參照）ノ標準條例ニ據ルコト

二　山林ノ輪伐齢設定

一　一般山林ニ必ス輪伐齢（林木ヨリ云フトキハ其ノ主伐伐期）ヲ設ケシメ伐採、植栽共ニ乱行ヲ制スルコト

二　一箇年ノ伐採幷ニ植栽ノ面積ハ輪伐齢ヲ以テ林地全面積ヲ除シタル商ニ等シカラシムルコト（之ヲ連年施業ト稱ス）

但シ植栽ノ場合ニシテ一定ノ計畫上ヨリスルモノハ此限ニアラス

三　小面積ノ山林ニシテ前項ノ年額過小ナルトキハ數年目毎ニ其ノ數年分ヲ施業スルコト（之ヲ隔年施業ト稱ス）

四　一村内大体ノ方面ヲ劃シ各方面ノ輪伐齢（用途ニ從ヒ）ヲ概定シテ各人之ヲ守ル習

慣ヲ爲サシムルコト例ヘハ何方面ノ山林ハ薪炭ナレハ何年用材ナレハ何年ノ輪伐齢ト定ムルカ如シ

三　林地ノ整理

一　一村内ノ山林ハ所有者互ニ交換分合ヲ行ヒ境界ノ錯雜ヲ避ケ兼テ所有地ヲ一箇所ニ集團セシムルコト

二　交換ノ評價ハ成ルヘク目測ニテ之ヲ遂クル良風ヲ馴致スルコト

三　特ニ境界ノ表示ヲ要スル場合ニ特種ノ樹木ヲ植ユルカ又ハ結木ノ法ニ依ルコト

四　山林ノ分筆ヲ成ルヘク避クルコト

四　木炭ノ改良及其産業組合ノ發達

一　同村内ノ當業者ハ互ニ改良法ヲ傳習シテ一村内ノ木炭ハ努メテ速ニ歸一セシムルコト

但シ改良製法者在ラサル時ハ便宜ノ方法ニ依リ改良ニ着手スルコト

二　當業者ハ努メテ現在産業組合（明治三十六年十二月設立福井縣木炭販賣組合）ニ加

入シテ廣ク一縣當業者ノ團結ヲ期スルコト

三　木炭集散上其ノ他特別ナル事由アラサル限リハ新ニ產業組合ヲ設立セシメサルコト

五　椎茸事業ノ永久的經營

一　椎茸製造事業ハ原料ノ豊富ト製法ノ熟練ト相俟テ努メテ愼重ニ經營セシムルコト

二　本縣施設中ノ椎茸摸範製造所（三方郡南西鄉村大藪、南條郡堺村荒井、大野郡平泉寺村壁倉）ノ結果ニ就キ利否ヲ研究スルヲ要ス即チ來年春季以後ニ於テ各所第一期ノ收獲ヲ見ルヘク其ノ以後ニ於テ斯業ノ難易始メテ判明スヘシ

附錄

害蟲驅除豫防法

（明治二十九年三月廿四日法律第十七號）

第一條　此ノ法律ニ於テ害蟲ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ蟲類ヲ謂フ

第二條　驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

認可ヲ經タル種類以外ノ害蟲發生シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ地方長官ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第三條　害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市町村ヲシテ該作人ヨリ其ノ費用ヲ徵收セシムルコトヲ得其ノ費用ノ徵收ニ關シテハ市制第百二條及町村制第百二條ヲ適用ス

第四條　害蟲蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ害蟲田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコトヲ得

第五條　地方長官ハ前條ノ驅除豫防ノ爲ニ市町村ヲシテ夫役ヲ市町村全部又ハ一部ノ田畑ノ作人及所有者ニ賦課セシムルコトヲ得

夫役ハ害蟲ノ種類ニ依リテ田又ハ畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得

夫役ノ賦課ハ段別又ハ地價ヲ以テ準率ト爲スヘシ

夫役ハ各別ノ率ニ據リ小作人自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ市制第百二十三條及町村制第百二十七條ヲ適用セス

六條　地方長官ハ驅除豫防ノ爲必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物、藁稈、刈株、雜草ヲ拔棄テ若ハ燒棄スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第七條　驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコト得ス

第八條　土地所有者管理者又ハ使用者ハ官吏及其ノ指揮ヲ承クル者ノ其ノ地ニ入リ驅

除豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　地方長官又ハ郡長ハ必要ナル場合ニ於テハ北海道地方費府縣稅（地方稅）又ハ郡費ヲ以テ第三條、第四條、第六條ノ費用ヲ補助若ハ驅除豫防ニ必要ナル器具ヲ給與シ又ハ資與スルコトヲ得

第十條　蟲類以外ノ動物又ハ黴菌ト雖農作物ヲ害スルトキ又害スルノ虞アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ適用スルコトヲ得

第十一條　第三條ノ場合ニ於テ地方長官ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條　第六條及第八條ニ依レル官吏若ハ其ノ指揮ヲ承クル者ノ行爲ヲ妨害スル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金又ハ十一日以上二十日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十三條　本法中市町村ニ關スル規定ハ北海道ノ區町村、沖繩縣ノ區間切島及市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル市町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第十四條　此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

◎法律第十七號參照

法律第一號市制　（明治二十一年四月二十五日官報抄錄）

第百二條　市ニ於テ徵收スル使用料、手數料（第八十九條）市稅（第九十條）夫役ニ代フル金圓（第百一條）共有物使用料及加入金（第八十四條）其他市ノ收入ヲ定期內ニ納メサルトキハ市參事會ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スヘシ其督促ヲ爲スニハ市條例ノ規程ニ依リ手數料ヲ徵收スルコトヲ得納稅者中無資力ナル者アルトキハ市參事會ノ意見ヲ以テ會計年度內ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ市會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス

第百二十三條　左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ府縣參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　市ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ並改正スル事

二　基本財產ノ處分ニ關スル事（第八十一條）

三　市有不動産ノ賣却讓與并質入書入ヲ爲ス事

四　各個人特ニ使用スル市有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事（第八十六條）

五　各種ノ保證ヲ與フル事

六　法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五個年以上ニ亘リ新ニ市住民ニ負擔ヲ課スル事

七　均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ賦加稅ヲ賦課スル事（第九十條第二項）

八　第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ市內ノ一區ニ費用ヲ賦課スル事

九　第百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

法律第一號町村制（明治二十一年四月二十五日官報抄錄）

第百二條　町村ニ於テ徵收スル使用料、手數料（第八十九條）町村稅（第九十條）夫役ニ代フル金圓（第百一條）共有物使用料及加入金（第八十四條）其他町村ノ收入ヲ定期內ニ納メサルトキハ町村長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スヘシ其督促ヲ爲スニハ町村條例ノ規定ニ依リ手數料ヲ徵收

スルコトヲ得納稅者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限リ納稅延期ヲ許スコト得其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス

第百二十七條左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　町村ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ幷改正スル事

二　基本財產ノ處分ニ關スル事（第八十一條）

三　町村有不動產ノ賣却讓與幷質入書入ヲ爲ス事

四　各個人特ニ使用スル町村有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事（第八十六條）

五　各種ノ保證ヲ與フル事

六　法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五個年以上ニ亘リ新ニ町村住民ニ負擔ヲ課スル事

七　均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事（第九十條第二項）

八　第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ町村内ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事

九　第百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

○蟲驅除豫防法取扱手讀

（明治二十九年三月二十八日農商務省訓令第六號）

第一條　害蟲驅除豫防法第二條第一項ニ依リ驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ニ付キ本大臣ノ認可ヲ請フトキハ各害蟲ニ付キ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　名稱、方言

二　主ナル被害農作物ノ種類

三　驅除豫防ノ方法

害蟲驅除豫防法第二條第二項ノ場合ニ於テモ本條ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添フヘシ

第二條　害蟲驅除豫防法ノ施行ニ係ル命令ヲ發布シタルトキハ其都度本大臣ヘ報告スヘシ

第三條　害蟲一市町村以上ニ蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ隣接市町村ニ於

テ同時ニ驅除豫防ヲ行フヘシ

第四條　害蟲隣接府縣ニ蔓延セントスルノ虞アルトキハ其ノ旨ヲ關係府縣ニ急報スヘシ

第五條　二府縣以上ニ跨リ害蟲蔓延シタルトキハ關係府縣ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ議定シ施行區域ヲ定メ驅除ヲ行フヘシ此場合ニ於テハ府縣知事ハ其ノ區域及第一條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ直ニ其ノ旨ヲ本大臣ニ具申スヘシ

第六條　害蟲驅除豫防法第十條ニ依リ蟲類以外ノ動物ニ對シ該法律ノ適用ニ付キ本大臣ノ認可ヲ請フトキハ本令第一條第一項ノ規程ヲ適用ス

第七條　害蟲發生シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ本大臣ニ急報スヘシ

第八條　害蟲蔓延シ若クハ蔓延豫兆アリテ市町村費ヲ以テ之ヲ驅除ノ豫防ヲ行フトキハ其ノ都度直ニ左ノ事項ヲ本大臣ニ報告スヘシ

一　害蟲ノ種類

二　郡市名町村

三　被害農作物ノ種類及被害見積反別

四　被害ノ狀況

第九條　每年度ニ於テ市町村費ヲ以テ施行シタル害蟲驅防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニ依リ翌年四月三十日マテニ本大臣ニ報告スヘシ

害蟲驅除豫防報告樣式（各害蟲ニ付區分スヘシ）

害蟲名

郡市名	被害町村ノ數	全上農作物ノ種類	全上見積反別	此平年收獲高	被害ニ付見積減收高	驅除豫防ニ係ル市町村費	全上夫役ノ役額	全上費補助	全上郡（地方）税補助額	全上府縣税補助額
何市										
何郡										
計										

害蟲種類及驅除豫防方法（明治三十五年七月十日福井縣令第六十六號）

第一條　害蟲驅除豫防法第二條ニ依リ稻ノ害蟲種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

前一　螟蟲（ズイムシ　ワラムシ）

第二　浮塵子（ウンカ　コヌカムシ）

第三　苞蟲（ツトムシ　ツヽミムシ）

第二條　第條ノ害蟲ハ左ノ方法ニ依リ驅除豫防ヲナスヘシ

第一　螟蟲

第一回　發生ニ對スル驅除法

一　苗代田整地

床地ハ巾三尺五寸以内床間ノ距離ハ一尺以上トシ長サ適宜ノ短冊形ニ整地スヘシ

二　點火誘殺

誘蛾燈ハ苗代田ニ於テハ個所毎ニ一個、反別一畝歩以上ハ一畝歩ヲ增ス毎ニ一個ヲ加ヘテ點火スヘシ

本田ニ於テハ一反歩以下ハ一個、一反歩以上ハ一反歩ヲ增ス毎ニ一個ヲ加ヘテ點

火スヘシ

誘蛾燈ノ位置ハ苗代田ニ於テハ周圍ヲ距ルコト三尺トシ本田ニ於テハ適宜ノ場所ヲ撰ヒ高サハ水盤ノ稻葉先ニ觸レサルヲ度トシ薄暮ヨリ午後第十時マテ點火スヘシ

前各號ノ外螟蛾發生期ニ於テハ家屋其ノ他藁置場等ノ附近ニ誘蛾燈ヲ點火スヘシ

三　採卵

螟蛾ノ發生期間苗代田ニ於テハ二日毎ニ本田ニ於テハ四日毎ニ一回以上稻葉ニ產附シクル卵塊ヲ採集スヘシ但シ採集シタル卵塊ハ適宜ノ器物ニ容レ孵化スル稚虫ノ逃逸セサル方法ヲ設ケテ寄生益蟲ノ發生ヲ保護スヘシ

四、採蟲

眞枯莖ハ幼蟲ノ他莖ニ移ラサル前其ノ莖ヲ根元ヨリ切リ取リ之ヲ燒棄スヘシ

第二回　發生ニ對スル驅除法

一、點火誘殺

誘蛾燈ハ一反歩以下ノ本田ニ於テ一個、一反歩以上ハ一反歩ヲ增ス毎ニ一個ヲ加ヘテ點火スヘシ

誘蛾燈ノ位置ハ適宜ノ場所ヲ撰ヒ稻葉先ニ觸レサルヲ度トシ薄暮ヨリ午後第十時マテ點火スヘシ

二、採蟲

枯穗ハ幼蟲ノ他莖ニ移ラサル前其ノ莖ヲ根元ヨリ切リ取リ之ヲ燒棄スヘシ

三、稻株堀取

前各項ノ驅除豫防充分ナラスト認メタル個所ハ稻刈取後ニ根株ヲ堀取リ之ヲ燒棄スヘシ

四、被害藁燒棄

螟蟲ノ害甚シキ個所ハ穗ノミヲ刈リ取リ其ノ藁及根株ヲ燒棄スヘシ

第二　浮塵子

一、雜草燒棄

前年ノ被害地及其ノ接近地ニアル畦畔、道路、堤塘等ノ雑草ハ發芽前ニ燒棄スヘシ此ノ場合ニ於テハ廣濶ノ個所ハ周圍ヨリ細長ノ個所ハ兩端ヨリ點火スヘシ

二、注油

浮塵子發生ノ稻田ニ於テハ田面ニ水ヲ湛ヘ石油ヲ注キ蟲ヲ拂ヒ若ハ洗ヒ落シ其ノ死スルヲ待チ速ニ新シキ水ト入レ替フヘシ但シ流出口ニ布袋等ヲ充テ置キ死蟲ヲ蒐集シ之ヲ燒棄スルカ又ハ土中ニ埋ムヘシ

注入スル油量ハ一反歩ニ付苗代田ニ於テハ三合乃至七合本田ニ於テハ一升乃至二升ノ割合トナスヘシ

注油ハ幼蟲ニ就テハ成ルヘク日中ニ成蟲ニ就テハ早朝稻葉ニ露ヲ保ツ間ニ之ヲ施スヘシ但シ曇天雨天又ハ蔓延ノ勢甚シキ場合ハ本文ニ拘ラス之ヲ施スヘシ

注油回數ハ二三日ヲ距テ凡ソ三回之ヲ施スヘシ

灌水ヲ止メタル後ニ至リ發生若ハ蔓延ノ兆アルトキハ速ニ田面ニ水ヲ湛ヘ石油ヲ注キ其ノ水ヲ一株毎ニ掬ヒ掛ケ拂ヒ落スヘシ

灌水ノ便ナキ個所ハ石油ヲ適宜大ノ舟形ノ器物ニ入レ稍株間ヲ引キ回シ其ノ器内ニ蟲ヲ拂ヒ落スヘシ

第三　苞蟲

一、採蟲

苞蟲ノ發生ヲ認メタルトキハ直ニ苞ノ上ヨリ摘ミ之ヲ撲殺スルカ又ハ田面ニ水ヲ湛ヘ石油ヲ注キ適宜ノ器ヲ以テ稻葉ヨリ梳リ落シ之ヲ驅殺スヘシ

第三條　螟蛾ノ發生期以前ニ於テハ町村内各大字毎ニ二個以上ノ誘蛾燈ヲ點シ之ヲ豫察スヘシ

第四條　作人ニ於テ害蟲ヲ驅除シタルトキハ其ノ田畑ニ住所氏名ヲ記載シタル木札ヲ道路ニ向ケ高サ四尺以上ニ建テ置クヘシ

害蟲驅除豫防法施行規則

（明治三十五年七月十八日　福井縣令第六十七號）

第一條　害蟲田畑ニ發生シ又ハ發生ノ虞アルコトヲ發見シタルトキハ何人ニ限ラス口頭又ハ書面ヲ以テ市町村長ニ急報スヘシ

市町村長ニ於テ前項ノ報告ニ接シタルトキハ直ニ實地ヲ調査シ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシメ同時ニ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ當廳ニ急報スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市町村長ハ直ニ所轄警察官署及隣接市町村長ニ通報スヘシ

第二條　郡市長ニ於テ前條第二項ノ報告ニ接シ又ハ報告ニ接セサルモ害蟲驅除豫防法第三條第一項ニ依リ驅除豫防ヲ行フノ必要アリト認ムルトキハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ明治三十五年七月福井縣令第六十六號害蟲種類及驅除豫防方法ノ一部若ハ全部ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハス又ハ之ヲ行フモ驅除豫防ノ方法ニ適合セスト認メタルトキハ郡長ハ町村長ニ命シ町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ其ノ費用ハ市町村ニ於テ害蟲驅除豫防法第三條第二項ニ依リ該作人ヨリ之ヲ徴收スヘシ

第三條　郡市長ニ於テ前條第一項ニ依リ驅除豫防ヲ行ハシメタルトキハ左ノ事項ヲ當廳ニ報告スヘシ

一　害蟲ノ種類
二　被害農作物ノ種類
三　被害ノ狀況
四　驅除豫防ヲ行フヘキ區域及期限
五　驅除豫防ノ方法

前條第二項ノ場合ニ於テハ郡市長ハ直ニ其ノ顚末ヲ當廳報告スヘシ

第四條　害蟲田畑ニ蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ市町村長ハ直ニ田畑ニ在テハ作人其ノ他ニ在テハ使用者ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシメ同時ニ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ當廳ニ急報スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市町村長ハ直ニ所轄警察官署及隣接市町村長ニ通報スヘシ

第五條　郡市長ニ於テ前條第一項ノ報告ニ接シ又ハ報告ニ接セサルモ害蟲驅除豫防法第四條若ハ第五條ニ依リ驅除豫防ヲ行フノ必要アリト認ムルトキハ第三條第一項ニ

規定スル事項ノ外左ノ調書ヲ添ヘ當廳ニ具申スヘシ

一　被害見積反別

二　驅除豫防ニ要スル經費收支豫算

三　夫役賦課ニ關スル方法

第六條　害蟲二郡市以上ノ田畑ニ蔓延シ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ關係郡市長ハ區域及驅除豫防方法ヲ協定シ當廳ニ具申スヘシ

第七條　前二條ノ場合ニ於テ急施ヲ要スルトキハ郡市長ハ直ニ害蟲驅除豫防法第四條及第五條ヲ施行スルコトヲ得

前項ニ依リ驅除豫防ヲ施行シタルトキハ第五條ニ規定スル事項ノ調書ヲ添ヘ當廳ニ報告スヘシ

第八條　郡市長ニ於テ害蟲驅除豫防法第六條ニ依リ驅除豫防ヲ行フノ必要アリト認ムルトキハ其ノ區域及施行方法ヲ定メ當廳ニ具申スヘシ

第九條　明治三十五年七月福井縣令第六十六號害蟲種類及驅除豫防方法第一條ニ定メタ

ル種類以外ノ害蟲發生シ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ蟲類以外ノ動物又ハ黴菌ニシテ農作物ヲ害スルノ虞アルトキハ其ノ狀況ヲ具シ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ當廳ニ急報スヘシ

第十條　驅除豫施行期間中日々ノ狀況ハ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ當廳ニ報告スヘシ

第十一條　警察官吏ハ其ノ部内ニ於テ驅除豫防ヲ施行スルトキハ之ヲ監督スヘシ

第十二條　每年度ニ於テ市町村費ヲ以テ施行シタル害蟲驅除豫防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニ依リ町村長ハ翌年四月十日マテニ郡長ニ郡市長ハ四月二十日マテニ當廳ニ報告スヘシ

害蟲驅除豫防報告樣式　（各害蟲ニ區別スヘシ）

町村名	被害農作物ノ種類	積反別	收穫高	見積減收高	係ル市町村費	役ノ數	費補助額	郡役費補助額	縣

害蟲驅除豫防監督委員設置規程

（明治三十四年六月十八日福井縣訓令第三十五號）

第一條　害蟲驅除豫防監督ノ爲メ左ノ職員ヲ設ク

委員長　一名

委員副長　一名

委員部長　十二名

委員副部長　十二名

理事　二名

委員　若干名

第二條　委員長ハ内務部長、委員副長ハ警部長、委員部長ハ郡市長、委員副部長ハ警察署長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　理事ハ委員中ニ就キ之ヲ命ス

第四條　委員ハ技師、屬、技手、警察部詰警部、郡市書記、警察署及同分署詰巡査部長ノ中ニ就キ之ヲ命ス

第五條　委員長ハ知事ノ命ヲ受ケ害蟲驅除豫防ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス

第六條　委員副長ハ委員長ヲ輔ケ委員長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

第七條　委員部長ハ上官ノ命ヲ受ケ部内ニ屬スル害蟲驅除豫防ノ監督事務ヲ掌理シ所屬ノ委員ヲ指揮監督ス

第八條　委員副部長ハ委員部長ヲ輔ケ部長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第九條　理事ハ委員長及委員副長ノ命ヲ受ケ諸般事務ノ整理ヲ司ル

第十條　技師、屬、技手、警察部詰警部中ヨリ命セラレタル委員ハ委員長及委員副長ノ指揮ヲ受ケ郡市町村ヲ巡回シ監督事務ニ從事ス

第十一條　警察分署長、警察署詰警部、郡書記、警察署及同分署詰巡査部長中ヨリ命セラレタル委員ハ委員部長及委員副部長ノ指揮ヲ受ケ常ニ部内ヲ巡回シ監督事務ニ從事ス

第十二條　委員部長ハ其所屬委員ノ受持區域及巡視方法ヲ定メ之ヲ委員長ニ報告スルモノトス

第十三條　委員部長ハ其部内ニ於ケル害蟲發生ノ狀況ヲ時々報告スヘシ

第十四條　委員部長ハ其部内ニ明治廿九年法律第十七號害蟲驅除豫防法第三條第四條第五條第六條ノ執行ヲ必要ト認メタルトキハ直ニ知事ニ内申スヘシ

福井縣蠶蛆驅除規則

（明治三十三年三月二十五日福井縣令第三十五號）

第一條　蠶種製造者養蠶者製絲者及蠶繭取扱者ニ於テ蠶蛆ヲ發見シタルトキハ之ヲ滅殺スヘシ

第二條　前條ニ違背シタルモノハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

明治三十七年九月廿六日印刷
明治三十七年九月廿九日發行

福井縣內務部第四課

福井縣福井市佐佳枝中町八十五番地
印刷者　花田吉治郎

植物防疫資料館
C-518-4031
農業技術研究所
寄　贈
D
2-4
360